



令和3年7月6日  
あふの環勉強会

# あふの環プロジェクト 説明資料

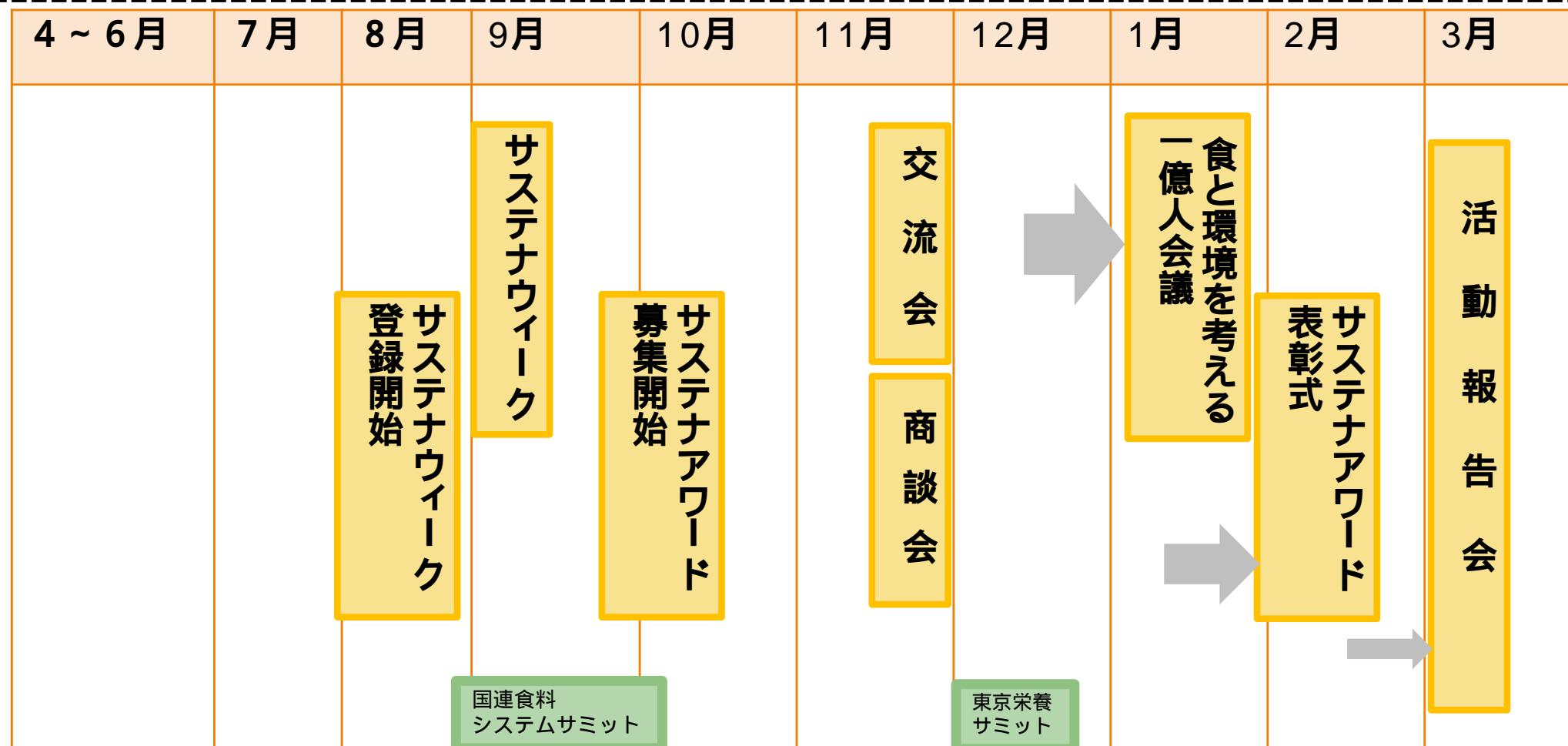


# 令和3年度のスケジュールと活動のポイント（案）

令和3年度は「見た目重視」から「持続性重視」の新たな市場の創出に向けて、以下を実施予定。

1. 交流会を通じて、あふの環メンバー間のコラボレーションを促進
2. 国連食料システムサミットと同時期に開催されるサステナティークに向けた集中的な広報の実施
3. 商談会の開催により、新たな市場（持続性重視の商品・サービス）の創出の端緒をつける
4. 「見た目重視」などで生じているムダの事例調査、整理、広報資材の作成

令和4年度に官民協議会の立ち上げを目指し検討に着手。



黄枠があふの環プロジェクトのイベント。開催時期・回数については、今後の情勢等を踏まえて変更する可能性がある。

サステナウイークとは、

一人でも多くの人に「**食と農林水産業のサステナビリティ**」について知ってもらうため、あふの環プロジェクトメンバーとともに、一斉に情報発信を行う11日間。

今年のサステナウイークは、9月18日（土）～28日（火）に実施。

“商品・サービスの背景情報・隠された価値”を丁寧に伝えることで、  
**見た目重視から持続性重視**のおかいものが増えることを目指す。

テレビ・ラジオなどのメディアの積極活用

Webショップ・店舗でサステナブルな商品をPR

各地でサステナビリティをテーマにイベントを実施

SNSで一斉に発信（#サステナウイーク）



## <事例>生産工程の見直し

### 良品計画

無印良品の全国80店舗において、生産工程を見直した  
「不揃いりんご」を販売

### 見直した生産工程

- ①赤い色をつけるための作業(反射シート、つる回し、葉採り)
- ②外観（傷、色ムラ）を選別する作業
- ③サイズを細かく分ける作業

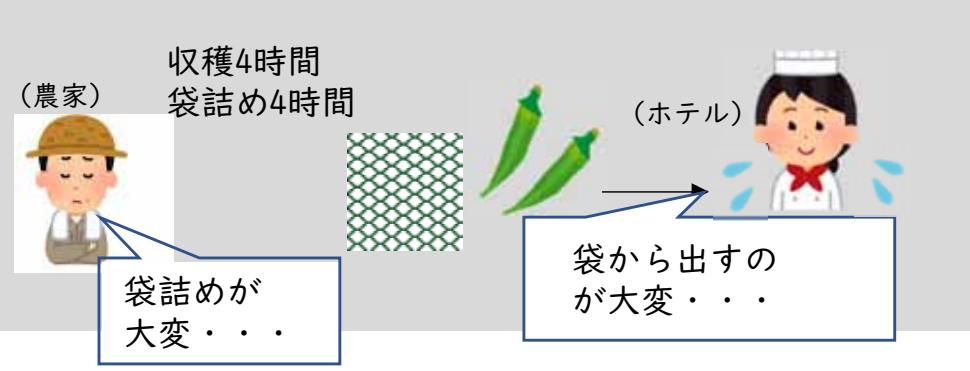
見た目を良くするため  
の作業を見直し

 人手不足や高齢化などの課題解決へ



## <事例>作業時間の短縮・包材の削減

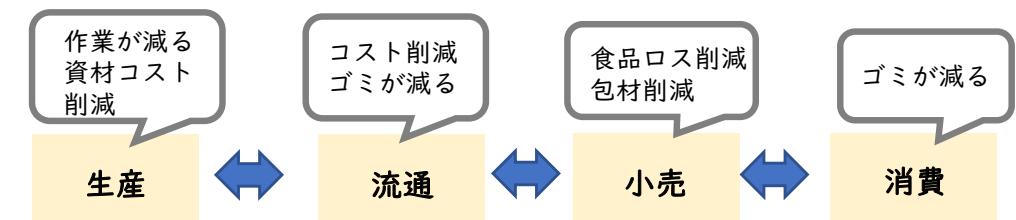
### オクラ農家（高知県）



袋詰め作業を  
見直し



 作業の引き算をすることで省力化へ



## <事例>見た目を変えて販売（なす）

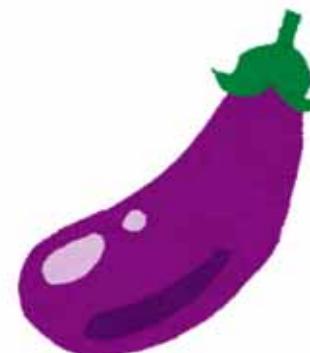
軽微な傷がついたせいで市場に出回らないナス、通常廃棄されてしまう小さすぎるナス等活用し、

農家さんや食品事業者等とともに、味噌なすパンやパウンドケーキ、なすジャムなどに加工。

「わけありナス」が生まれ変わりました、と、サステナブルである理由をアピールしつつ販売しています。

産地の常識の  
見直し

💡 産地全体でロスの削減



埼玉県本庄市  
“とことん児玉なす100%活用プロジェクト”

## <事例>ひと皮むけば同じ（温州みかん）

そばかすのような黒い斑点（黒点病と呼ばれる）がついてしまうと、見た目が悪くなり売れにくいため出荷を諦めることがあります。

このため、現状では斑点の発生を予防するため数回農薬を散布し、収穫が近づくと再び散布します。

しかし、多少斑点ができても中身に影響はなく、美味しく食べられます。

消費の常識の  
見直し

💡 農薬の低減、ロスの削減



写真提供：農研機構

<サステナウイークでの「サステナブルなもの」の考え方>

食と農林水産業のサステナビリティに関する6つの項目について、

少なくとも1つは考慮し、

残りの項目に大きな影響を及ぼさないものであり、

その内容について、企業HP等で情報が確認できること（生活者が認証やタグから確認できるものでもOK）

## 6つの項目とその例（あくまで例）



- ・化石燃料の使用を減らしている
- ・適切に管理された森林由来の木材や紙を使っている
- ・家畜の飼育に国産のエサを使っている(概ね8割以上)



- ・包装を減らしている
- ・通常廃棄される食品等を活用している
- ・バイオマス由来の廃棄物を有効活用している



- ・農薬や化学肥料を使わない有機農業を行っている
- ・資源を守りつつ漁業を行っている
- ・水田の冬期湛水を行っている



- ・行き場がない農産物等の支援を行っている
- ・フードバンクやこども食堂と連携して必要な人に届ける
- ・人手が足りない農林漁業者を支えている



- ・排水量の削減など環境への負荷を低減している
- ・地下水等を汚染させないよう適切な管理を行っている
- ・生産過程で水を過剰に使わないよう工夫している



- ・土壤診断を行って化学肥料の投入を最少化している
- ・被覆作物を植える等で土壤浸食を防いでいる
- ・有害物質で汚染させないようにしている

# サステナティーク 発信していただく商品・サービスのイメージ（補足）

- ・ 6つの項目について、少なくとも1つは考慮し、残りの項目に大きな悪影響を及ぼさないものであり、その内容について、企業HP等で情報が確認できること（生活者が認証やタグから確認できるものでもOK）

## <例A> 条件を満たしており

生分解性で、生産にあたって排出される温室効果ガスも通常より少なく「温暖化」、「ごみ」の項目を考慮しています。  
地域の「いきもの」「水」「支え合い」「土」について大きな悪影響がみられません。 HPでこれらについて情報公開しています。

## <例B> アクセスできる情報がないため×

生分解性で、生産にあたって排出される温室効果ガスも通常より少なく「温暖化」、「ごみ」の項目を考慮しています。  
地域の「いきもの」「水」「支え合い」「土」について大きな悪影響がみられません。 HPにこれらの情報はありません。  
HPに について情報を掲載する必要があります。

## <例C> 考慮項目以外に悪影響を与える「可能性」があるため×

土壤への微生物噴霧により「土」、「水」のサステナ項目を考慮しています。  
撒くと一時的に直接に生態系に手をいれることになることになり、「いきもの」に悪影響がある可能性がありますが、分かりません。  
HPに「土」と「水」の保全効果について記載されています。  
について、客観的な実験や論文等で影響がないことを確認し、HPにその情報を掲載する必要があります。

生活者が誤認・混乱しないよう、各社のHP等で説明ができるようにお願いします。

# (参考)「あふの環プロジェクトの推進」の位置づけ

令和3年3月16日 参・農水委 野上農林水産大臣答弁

一部委員会を抜粋

- 1 「みどりの食料システム戦略」は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の向上をイノベーションで実現するため、調達、生産、加工・流通、消費のサプライチェーン全体で取り組むこととしており、消費面での取組として、環境にやさしい持続可能な消費の拡大を掲げているところです。
- 2 昨年12月に立ち上げられた「みどりの食料システム戦略本部」において了承された「策定に当たっての考え方」を基に、本年1月から、様々な生産者、食品事業者等幅広い関係者と意見交換を重ねているところであり、この意見交換の中でも、生産面の取組とあわせて、消費面での取組が重要との意見を頂いているところです。
- 3 持続可能な食や農林水産業に対する消費者の関心を高めるとともに、生産・流通・小売等事業者による持続可能な活動を促進するため、農林水産省では、消費者庁及び環境省と連携して、昨年（令和2年）6月から「あふの環(わ)プロジェクト」（令和3年3月現在、会員数111者）を立ち上げております。
- 4 具体的には、
  - 外見重視から持続性を重視した消費の転換に向けた関係者の意識醸成のための勉強会や交流会の開催
  - メンバーによる集中的な情報発信を行う「サステナティーク」の実施
  - 持続可能なサービスや商品を扱う地域や事業者等を表彰する「サステナアワード」の実施等の取組を始めており、これらを引き続き推進してまいりたいと考えております。
- 5 加えて、食料・農業・農村基本計画に基づき、食と環境を支える農業・農村への国民の理解を醸成するため、官民協働で行うこととしている新たな国民運動の中で、みどりの食料システム戦略を踏まえた消費面での意識変容に取り組んでまいりたいと考えております。